専　門　教　養
令和 2 年 7 月
60 分

受　験　教　科　等
特別支援学校　**理　療**

注　意

1　指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2　全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
3　机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
4　他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン等の使用及び不正行為をしてはいけません。
5　解答時間は60分です。途中退出はできません。
6　問題冊子のページ数は、21ページです。はじめにページ数を確かめてください。
7　解答用紙に、**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の**【1】の欄には、受験番号を記入**し、**受験番号に対応する数字をマーク**してください。**【2】の欄には、氏名を記入**してください。ただし、**【3】の選択問題を表す欄のマークは不要**です。
8　問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
9　問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年、平成30年又は平成31年告示の「学習指導要領」を表しています。
10　問題の内容についての質問には一切応じません。

解答上の注意

1　解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（－）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つのみの場合とがあります。

2　「解答番号は［1］。」と表示のある問に対して、**3** と解答する場合には、次の（例１）のように解答番号［1］の解答欄の③にマークしてください。

（例１）

解答番号	解答欄
1	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。

1　特別支援教育に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 個別の教育支援計画に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の **1** ～ **6** のうちのどれか。解答番号は **1** 。

ア　個別の教育支援計画は、特別な教育的支援を必要とする児童・生徒一人一人の教育的ニーズを具体的な指導に反映させるために、単元や学期、学年ごとに学級担任が作成するものである。

イ　個別の教育支援計画は、障害のある児童・生徒一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的として作成されるものである。

ウ　個別の教育支援計画は、特別支援学校に在学する児童・生徒については作成しなければならないが、小・中学校若しくは義務教育学校又は中等教育学校の前期課程における特別支援学級の児童・生徒と、小・中学校及び高等学校において通級による指導が行われている児童・生徒については、必要に応じて作成するものとされている。

エ　個別の教育支援計画は、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組みが必要であり、関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠であるとともに、作成に当たっては、保護者の積極的な参画を促し、計画の内容について保護者の意見を十分に聞いて計画を作成又は改訂することが必要である。

1　ア・イ
2　ア・ウ
3　ア・エ
4　イ・ウ
5　イ・エ
6　ウ・エ

〔問 2〕 次の記述**ア**～**エ**のうち、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（中央教育審議会　平成24年７月）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の **1** ～ **6** のうちではどれか。解答番号は **2** 。

ア　共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会であり、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のことをいう。

イ　インクルーシブ教育システムとは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするという目的の下、障害のある者が社会に貢献できるようにするための場を提供する仕組みのことである。

ウ　インクルーシブ教育システムにおいては、共生社会の実現を追求することから、個別の教育的ニーズのある児童・生徒であっても、学校卒業後の自立と社会参加を見据えて、全ての児童・生徒が同じ場で同じ内容を共に学べるようなシステム構築や環境整備を行うことが求められる。

エ　特別支援教育を推進していくことは、子供一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うものであり、この観点から教育を進めていくことにより、障害のある子供や学習上又は生活上の困難のある子供だけではなく、全ての子供にとって、良い効果をもたらすことができるものと考えられる。

1　**ア・イ**
2　**ア・ウ**
3　**ア・エ**
4　**イ・ウ**
5　**イ・エ**
6　**ウ・エ**

〔問 3〕 障害のある人の生涯学習の推進に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、「障害者の生涯学習の推進方策について－誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して－（報告）」（文部科学省　学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議 平成31年３月）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は［ **3** ］。

ア　障害のある人の学びの環境整備を行うに当たっては、社会でよりよく生きることができるよう、本人の学びたい内容ではなく、社会生活に即した内容の学習を行うことが大切であり、学びが円滑に進むように、支援者が中心となって課題等を精選し、適切に準備を行う必要がある。

イ　学校教育における学びと学校卒業後における社会での学びとは質や内容が異なるため、これまで学校で行われてきた教育内容とは切り離し、社会で求められる内容を踏まえて、学校卒業後の新たな環境で必要とされる知識や技能を生涯にわたって学び続けられるようにする必要がある。

ウ　障害のある人は、学校卒業後、企業等において就労したり障害福祉サービスを利用したりしながら社会生活を送ることが多いため、日々の生活において円滑かつ継続的に学ぶことができるよう、生涯にわたる学びと福祉や労働、医療などの分野における取組との連携を強化する必要がある。

エ　障害のある人の学びの場づくりを進めることと並行して、障害に関する社会全体の理解の促進を図ることが極めて重要であり、障害のある人がどのようなことに困難を感じており、どのような配慮や支援があれば周りの人と共に学んだり交流したりしやすくなるのか、といったことについて、家族や支援者などの関係者だけでなく、社会全体の理解を進めていく必要がある。

1　**ア・イ**
2　**ア・ウ**
3　**ア・エ**
4　**イ・ウ**
5　**イ・エ**
6　**ウ・エ**

2 学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 次の記述**ア**～**エ**のうち、特別支援学校高等部学習指導要領の「総則」の「教育課程の編成」のうちの「生徒の調和的な発達の支援」に示されているものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は **4** 。

ア 生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うカウンセリングと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うガイダンスの双方により、生徒の発達を支援すること。

イ 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、道徳教育を要としつつ生徒が自己の在り方生き方を考える教育の充実を図ること。

ウ 生徒が、学校教育を通じて身に付けた知識及び技能を活用し、もてる能力を最大限伸ばすことができるよう、生涯学習への意欲を高めるとともに、社会教育その他様々な学習機会に関する情報の提供に努めること。

エ 複数の種類の障害を併せ有する生徒については、専門的な知識、技能を有する教師や特別支援学校間の協力の下に指導を行ったり、必要に応じて専門の医師やその他の専門家の指導・助言を求めたりするなどして、学習効果を一層高めるようにすること。

1 ア・イ
2 ア・ウ
3 ア・エ
4 イ・ウ
5 イ・エ
6 ウ・エ

〔問 2〕 次の記述**ア**～**エ**のうち、特別支援学校高等部学習指導要領の「総則」の「教育課程の編成」のうちの「高等部における教育の基本と教育課程の役割」に示されているものとして適切なものには①を、適切でないものには㊀をそれぞれマークせよ。解答番号は**ア**が 5 、**イ**が 6 、**ウ**が 7 、**エ**が 8 。

ア　学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、保健体育の時間において適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。

イ　生徒の発達の段階を考慮して、生徒の多様な体験活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。

ウ　学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。

エ　生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学校の基礎的環境整備や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとする。

3　次の事例を読み、下の各問に答えよ。

生徒Ａは知的障害特別支援学校中学部に在籍する知的障害のある生徒である。

生徒Ａの様子

- 知的障害の程度は、言葉での意思疎通が困難で、日常生活面など一部支援が必要。
- 基本的な生活習慣はある程度自立しているが、衣服の着脱では教師の支援が必要。
- 手先を使った活動では、①ぎこちなさや不器用さがみられる。
- 音声言語は不明瞭で、発声や指さし、身振りやしぐさ、絵カード等で簡単なコミュニケーションをとろうとするが、②何を伝えたいのかが相手に伝わりにくいことが多い。
- 音声言語による簡単な指示を理解することができる。
- 集団での学習場面において、順番を待つなどのルールや決まり事を守るのが難しい。
- 自分の気持ちや思いを一方的に通そうとする場面がある。
- 特定の教師との関わりが中心である。
- 友達と協力して活動することが難しい。
- 新しい場所や活動には不安になりやすく、積極的に取り組むことはあまりみられないが、見通しがもてるようになると集中して取り組むことができる。
- 自分の思い通りにならないと情緒が不安定になり、混乱する場合がある。

（「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（文部科学省　平成30年３月）」から作成）

〔問 1〕 次の記述**ア**～**エ**のうち、下線部①について、「生徒Ａの様子」や知的障害の特性を踏まえた生徒Ａへの指導として、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は **9** 。

ア　毎回違った手先を使う学習を用意して、飽きずに課題に取り組めるようにする。
イ　はさみを使う指導では、切る形を直線から曲線へと段階的に指導する。
ウ　ひもにビーズを通す活動などで、両手や目と手の協応動作ができるように指導する。
エ　衣服の着脱では、ボタンはめができるように指導してから、ボタン外しを指導する。

1　**ア・イ**
2　**ア・ウ**
3　**ア・エ**
4　**イ・ウ**
5　**イ・エ**
6　**ウ・エ**

〔問 2〕 次の記述**ア**～**エ**のうち、下線部②について、「生徒Ａの様子」や知的障害の特性を踏まえた生徒Ａへの指導として、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は **10** 。

ア 欲しいものを要求する場面で、ふさわしい身振りを指導する。
イ 発声が要求の表現となるように、教師が意味付ける。
ウ 相手の立場に合わせた言葉遣いなど、場面にふさわしい表現方法を身に付けさせる。
エ 内言語や言葉の理解には困難がないので、補助的手段を活用して意思の表出を促す。

1 **ア・イ**
2 **ア・ウ**
3 **ア・エ**
4 **イ・ウ**
5 **イ・エ**
6 **ウ・エ**

〔問 3〕 生徒Ａは、高等部での学習や卒業後の生活を想定すると、他者からの指導や助言を受け入れられる人間関係の形成を図りながら、集団への参加を促し、ルールを守ることなどといった社会性を身に付けていく必要がある。そこで現時点で指導すべき目標を「教師や友達からの助言を受けながら、落ち着いて順番を守ることができる。」と設定した。この目標を達成するための具体的な指導内容として、次の記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は **11** 。

ア 状況に合わせながら、友達に伝えたいことを絵カードから選択して伝える。
イ 文章で手順の書かれたメモを用意し、自分で読み上げながら作業をする。
ウ 学習場面で絵カードを用いて見通しをもてるようにし、順番を意識できるようにする。
エ 「うれしい」「くやしい」といった感情を教師と共有し、感情に名前があることを知る。

1 **ア・イ**
2 **ア・ウ**
3 **ア・エ**
4 **イ・ウ**
5 **イ・エ**
6 **ウ・エ**

4 障害に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 視覚障害のある児童・生徒に対する点字指導に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、「点字学習指導の手引（平成15年 改訂版）」（文部科学省　平成15年）に照らして正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の **1** ～ **6** のうちのどれか。解答番号は **12** 。

ア　点字学習の導入に当たって、触運動の統制、触空間の形成、言語の発達などの点字学習のレディネスの形成が大切である。

イ　日本の点字は、日本語の音に一対一で対応しているので、「ラッパ」は２音、「きゅうきゅうしゃ」は３音のようにリズム打ちで理解させることが必要である。

ウ　点字の読みにおいて、点字盤の使用を考えて、初期の段階から両手読みではなく、利き手だけで読むことができるように指導していく。

エ　点字を書く学習の初期段階では、書いた点字を裏返さずにそのまま読むことができるため、凸面書きの点字タイプライタによる学習が効果的である。

1　**ア・イ**
2　**ア・ウ**
3　**ア・エ**
4　**イ・ウ**
5　**イ・エ**
6　**ウ・エ**

〔問 2〕 聴覚障害者である児童・生徒に対する指導上の配慮事項に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（文部科学省　平成30年３月）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1** ～ **6** のうちではどれか。解答番号は 13 。

ア　意思の相互伝達には、聴覚活用、読話、発音・発語、文字、キュード・スピーチ、指文字、手話などの方法があるが、指文字、手話など視覚を中心とした方法は必ず選択・活用することが大切である。

イ　児童・生徒の保有する聴覚の活用では、必ずしも補聴器や人工内耳に限らず、例えば、水泳等の補聴器を装用できない場合の指導においては、教師の声を直に聞かせるようにすることなども含んでいる。

ウ　視覚等を有効に活用するため、視聴覚教材や教育機器、コンピュータ等の情報機器や障害の状態に対応した周辺機器を適切に使用することによって、指導の効果を高めることが大切である。

エ　言葉の意味を理解したり、それによって的確な言語概念を形成したりするためには、できるだけ多くの言葉を覚え、体験していない事柄なども言葉で表現できるようにすることが大切である。

1　**ア・イ**
2　**ア・ウ**
3　**ア・エ**
4　**イ・ウ**
5　**イ・エ**
6　**ウ・エ**

〔問 3〕 肢体不自由の主な起因疾患と特徴に関する記述として最も適切なものは、次の **1** ～ **4** のうちではどれか。解答番号は **14** 。

1 発育過程における脳の形成異常や様々な原因による脳損傷の後遺症を原因とする、進行性の脳の病変に基づく運動と姿勢の異常を脳性まひという。

2 遺伝性で、かつ筋原性の変性疾患であり、性染色体性のデュシャンヌ型及び筋強直性と、常染色体性の福山型及びベッカー型に大別される病態を筋ジストロフィーという。

3 椎弓の一部及び棘突起を欠損して脊柱管の後方の骨性保護が欠けたもので、嚢胞性と潜在性に大別される病態を二分脊椎という。

4 下半身の部分的な骨脆弱性、易骨折性を特徴とする疾患群で、コラーゲンの遺伝子異常により発症する病態を骨形成不全症という。

〔問 4〕 知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校で行っている「各教科等を合わせた指導」に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の **1** ～ **6** のうちではどれか。解答番号は **15** 。

ア 日常生活の指導は、生活科を中心として各教科等の内容が取り扱われ、衣服の着脱、手洗いなどの基本的生活習慣の内容や、挨拶、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において必要かつ基本的な内容を計画的に指導することで、児童・生徒の日常生活が充実し、高まるようにするものである。

イ 遊びの指導は、遊びを学習活動の中心に据えて取り組むことを通して、心身の発達を促していくものであり、指導の成果が、学習面、生活面の基盤となるよう、指導者が常に場や遊具等を限定することが必要である。

ウ 生活単元学習は、児童・生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際的・総合的に学習するものであり、広範囲に各教科等の目標や内容が扱われる。

エ 作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童・生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものであり、作業学習で学習したことの成果が児童・生徒の将来の進路先に直接つながるよう、作業技術を向上させることを目的とする。

1 **ア・イ**
2 **ア・ウ**
3 **ア・エ**
4 **イ・ウ**
5 **イ・エ**
6 **ウ・エ**

〔問 5〕 病弱者である児童・生徒に対する指導に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（文部科学省　平成30年３月）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1** ～ **6** のうちではどれか。解答番号は **16** 。

ア　小児がんの経験がある児童・生徒の場合、治療後に起きる成長障害や内分泌障害等の晩期合併症のリスクがあることを理解して、体調の変化や感染症予防等に留意するなど、病気の予防や適当な運動や睡眠等の健康管理を自らできるようにする必要がある。

イ　てんかんのある児童・生徒の場合、定期的な服薬により発作はコントロールできることが多いが、短時間意識を失う小発作の場合には、発作が起きているのを本人が自覚しにくいことから、自己判断して服薬を止めてしまうことがあるため、定期的な服薬の必要性について理解させるとともに、確実に自己管理ができるよう指導する必要がある。

ウ　糖尿病の児童・生徒の場合、従来から多い２型とともに、近年は食生活や運動不足等の生活習慣と関連する１型が増加しているため、血糖値を毎日測定して、病状に応じた対応ができるようにするとともに、適切な食生活や適度の運動を行うなどの生活管理を主体的に行い、病気の進行を防止することが重要である。

エ　二分脊椎の児童・生徒の場合、尿路感染の予防のために排泄指導、清潔の保持、水分の補給及び定期的に検尿を行うことに関する指導をするとともに、座位を変えることにより褥瘡（じょくそう）ができることがあるため、頻繁に姿勢変換を行わないよう指導する必要がある。

1　**ア・イ**
2　**ア・ウ**
3　**ア・エ**
4　**イ・ウ**
5　**イ・エ**
6　**ウ・エ**

5 特別支援学校高等部学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 次の特別支援学校高等部学習指導要領理療の「各科目」の「内容の取扱い」に関する記述中の空欄 **ア** ～ **エ** に当てはまる科目Ａ～Ｄの組合せとして適切なものは、下の **1** ～ **4** のうちのどれか。解答番号は **17** 。

> 「生活と疾病」の「診察法」については、理療と直接関わりの深い事項に重点を置き、実習及び **ア** との関連を考慮して指導すること。
>
> 「基礎理療学」の「理療施術の治効理論と関連学説」については、 **イ** との関連を考慮して取り扱うこと。
>
> 「疾病の成り立ちと予防」の「消毒」については、「理療基礎実習」及び **ウ** との関連を図りながら、実践的に取り扱うこと。
>
> 「医療と社会」の「社会保障制度の概要」、「理療の現状と課題」及び「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の倫理」については、 **エ** との関連を考慮して指導すること。

Ａ 「地域理療と理療経営」
Ｂ 「臨床理療学」
Ｃ 「理療臨床実習」
Ｄ 「人体の構造と機能」

1 **ア**－Ａ　**イ**－Ｃ　**ウ**－Ｄ　**エ**－Ｂ
2 **ア**－Ａ　**イ**－Ｄ　**ウ**－Ｃ　**エ**－Ｂ
3 **ア**－Ｂ　**イ**－Ｃ　**ウ**－Ｄ　**エ**－Ａ
4 **ア**－Ｂ　**イ**－Ｄ　**ウ**－Ｃ　**エ**－Ａ

〔問 2〕「理療情報」の〔指導項目〕に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、「理療における情報の活用と管理」に関するものの組合せとして適切なものは、下の **1** ～ **6** のうちのどれか。解答番号は 18 。

ア　保健医療福祉分野の情報
イ　情報の発信方法
ウ　情報を扱う個人の責任
エ　情報システムの特徴

1　**ア・イ**
2　**ア・ウ**
3　**ア・エ**
4　**イ・ウ**
5　**イ・エ**
6　**ウ・エ**

6 理療に関する法令について次の問に答えよ。

〔問〕 あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師の免許に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は **19** 。

ア 施術者が失踪の宣告を受けた場合、届出義務者は免許証を30日以内に返納しなければならない。

イ 施術者が業を行えるようになる免許の効力の発生は、あん摩マツサージ指圧師名簿、はり師名簿又はきゆう師名簿に登録されたときである。

ウ 施術者が免許の取り消し処分を受けたときは、５日以内に施術所の廃止届けをしなければならない。

エ 施術者が本籍地の都道府県を変更したときは、免許証の再交付の申請をしなければならない。

1 ア・イ
2 ア・ウ
3 ア・エ
4 イ・ウ
5 イ・エ
6 ウ・エ

7　理療基礎科目に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 人体各部の関節等に関する記述として適切なものは、次の **1** ～ **5** のうちのどれか。解答番号は **20** 。

1　股関節は関節窩が非常に深く、臼状関節といわれる。安定性はあるが、可動域が狭い。関節包は寛骨臼から大腿骨頭の基部まで及び、関節包の外側に大腿骨頸部がある。

2　足弓には縦足弓及び横足弓があり、四足歩行を行う哺乳動物に特有の構造である。これらは、足底にある強靱な靱帯等によって成立する。

3　膝関節は大腿骨と脛骨の内側顆と外側顆の間に作られる蝶番関節で、腓骨も関与する。内側・外側側副靱帯、前後に交差する十字靱帯及び膝蓋靱帯などにより補強される。

4　椎間関節は接する椎骨の上関節突起と下関節突起の間に作られる平面関節で、間に椎間円板が入る。椎体前面は黄色靱帯により連結される。

5　橈尺関節には上と下があり、上橈尺関節は橈骨の関節環状面と尺骨の橈骨切痕との車軸関節で、下橈尺関節は橈骨の尺骨切痕と尺骨頭の関節環状面の間の車軸関節である。

〔問 2〕 ホルモンに関する次の記述**ア**～**エ**と、分泌部位Ａ～Ｄとの組合せとして適切なものは、下の **1** ～ **4** のうちのどれか。解答番号は **21** 。

ア　カテコールアミンは心収縮力、心拍数を増加させ、血糖値を上昇させる。

イ　コルチゾールは血糖値を上昇させ、炎症を抑える。

ウ　バソプレシンは腎臓の集合管に作用して、水分の再吸収を促進する。

エ　ゴナドトロピンは主にＦＳＨとＬＨであり、エストロゲンの分泌を促進する。

Ａ　下垂体前葉
Ｂ　副腎皮質
Ｃ　副腎髄質
Ｄ　下垂体後葉

1	**ア**－Ｂ	**イ**－Ｃ	**ウ**－Ａ	**エ**－Ｄ
2	**ア**－Ｂ	**イ**－Ｃ	**ウ**－Ｄ	**エ**－Ａ
3	**ア**－Ｃ	**イ**－Ｂ	**ウ**－Ａ	**エ**－Ｄ
4	**ア**－Ｃ	**イ**－Ｂ	**ウ**－Ｄ	**エ**－Ａ

〔問 3〕 我が国の公衆衛生に関する記述として適切なものは、次の **1** ～ **4** のうちのどれか。解答番号は **22** 。

1 常時千人以上の労働者を使用する一般業務の事業場では、労働安全衛生規則により事業者は非常勤の産業医を選任しなければならない。

2 知的障害者の就労定着支援は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律による支援施策として実施されている。

3 保健師による妊産婦への訪問指導は、母子保健法により都道府県が所管し実施している。

4 介護保険法による介護給付を受けようとする者は、区市町村に申請し、認定を受けなければならない。

8 理療専門基礎科目に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 異常歩行に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は **23** 。

ア 股関節外転筋の筋力低下により、患側立脚期において健側骨盤が落下し、体幹を反対に側屈させながら歩行することをトレンデレンブルク歩行という。

イ 股関節外転筋群に痙性があると遊脚期において下肢を前内側に振り出し、大腿部が交叉した状態で歩行することをはさみ足歩行という。

ウ 小脳性失調による姿勢保持の障害により、前屈姿勢をとり歩幅が徐々に小刻みになり、足の送りが速くなることを小刻み歩行という。

エ 前脛骨筋の麻痺により下垂足となり、遊脚期に股関節及び膝関節を過度に屈曲し、つま先から接地して歩行することを鶏歩という。

1 ア・イ
2 ア・ウ
3 ア・エ
4 イ・ウ
5 イ・エ
6 ウ・エ

〔問 2〕 脳腫瘍に関する次の記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は **24** 。

ア 神経膠腫は、脳実質から発生し、グリア細胞由来のものが多い。

イ 下垂体腺腫は、下垂体前葉に発生し、視力・視野障害を生じる。

ウ 髄膜腫は、クモ膜の表層細胞から発生し、脳内浸潤性が高い。

エ 神経鞘腫は、シュワン細胞から発生し、悪性腫瘍になる。

1 ア・イ
2 ア・ウ
3 ア・エ
4 イ・ウ
5 イ・エ
6 ウ・エ

9 理療専門科目に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 肝の病証は各種存在し、共通症状として頭痛、めまい、不眠等があるが、次の各病証の特徴的な症状**ア**～**エ**と、病証名Ａ～Ｄとの組合せとして適切なものは、下の**1** ～ **4** のうちのどれか。解答番号は **25** 。

ア 顔面紅潮、目の充血、怒りっぽい、口が苦い。
イ 精神的抑うつ、梅核気。
ウ 五心煩熱、口や喉の渇き、盗汗、顔がほてる。
エ 目の乾きやかすみ、顔色が白っぽい、筋のひきつり。

Ａ 肝火の亢進
Ｂ 肝血虚
Ｃ 肝気の鬱滞
Ｄ 肝陰虚

1 **ア**－Ａ **イ**－Ｂ **ウ**－Ｄ **エ**－Ｃ
2 **ア**－Ａ **イ**－Ｃ **ウ**－Ｄ **エ**－Ｂ
3 **ア**－Ｄ **イ**－Ｂ **ウ**－Ａ **エ**－Ｃ
4 **ア**－Ｄ **イ**－Ｃ **ウ**－Ａ **エ**－Ｂ

〔問 2〕 奇経の流注に関する次の記述**ア**～**エ**と、奇経の名称Ａ～Ｄとの組合せとして適切なものは、下の **1** ～ **4** のうちのどれか。解答番号は **26** 。

ア　踵から起こり、腎経の別脈といわれる。腎経の然谷穴の後ろで照海穴から分かれて腎経に沿って上り、交信を経て、前胸部のやや深部を上り、缺盆穴を経て睛明穴で膀胱経と交わる。

イ　膀胱経の金門穴から起こって陽交穴に交わり、大腿外側、側腹部及び側胸部をめぐって、小腸経の臑俞穴に上り、小腸経、膀胱経等と交わる。その後、肩井穴で二つに分かれる。一方は頭部に行き、もう一方は督脈と交わる。

ウ　腎経の築賓穴から起こり、大腿内側を上って下腹部に入り脾経の府舎穴、大横穴、腹哀穴を経て肝経の期門穴に交わり、咽喉を左右からはさんで任脈の天突穴、廉泉穴に達して終わる。

エ　踵から起こり、膀胱経の別脈といわれる。申脈穴から起こって、僕参穴から跗陽穴に行き、大腿の外側を上行し、居髎穴に交わる。さらに小腸経の臑俞穴で他経と交わり、肩髃穴などを経て、顔面で承泣穴と交わり、睛明穴から頭部をめぐって、風池穴に終わる。

Ａ　陽維脈
Ｂ　陰蹻脈
Ｃ　陰維脈
Ｄ　陽蹻脈

1　**ア**－Ｂ　**イ**－Ａ　**ウ**－Ｃ　**エ**－Ｄ
2　**ア**－Ｂ　**イ**－Ｄ　**ウ**－Ｃ　**エ**－Ａ
3　**ア**－Ｃ　**イ**－Ａ　**ウ**－Ｂ　**エ**－Ｄ
4　**ア**－Ｃ　**イ**－Ｄ　**ウ**－Ｂ　**エ**－Ａ

〔問 3〕 鍼尖の形状による特徴に関する次の記述**ア**～**エ**と、その形状名A～Dとの組合せとして適切なものは、下の **1** ～ **8** のうちのどれか。解答番号は **27** 。

ア 鍼尖を鋭利に仕上げ、撚鍼法に適している。

イ 管鍼法に最も適しており、鍼尖がいたみにくい。

ウ 鍼尖はいたみにくいが、刺入しにくく鈍痛を与えやすい。

エ 鍼体の根元から先端まで順に細く仕上げ、鍼尖がいたみやすい。

A 松葉形

B 卵形

C ノゲ形

D スリオロシ形

1	**ア**－A	**イ**－B	**ウ**－C	**エ**－D
2	**ア**－A	**イ**－C	**ウ**－D	**エ**－B
3	**ア**－B	**イ**－A	**ウ**－D	**エ**－C
4	**ア**－B	**イ**－D	**ウ**－C	**エ**－A
5	**ア**－C	**イ**－A	**ウ**－B	**エ**－D
6	**ア**－C	**イ**－D	**ウ**－A	**エ**－B
7	**ア**－D	**イ**－B	**ウ**－C	**エ**－A
8	**ア**－D	**イ**－C	**ウ**－B	**エ**－A

3　問題文中の [2] 、[3][4] などの [　] には、数字又は符号（−）が入ります。次の⑴～⑷の方法でマークしてください。

⑴　[2] 、[3] 、[4] 、……の一つ一つは、それぞれ１～９、０の数字又は符号（−）のいずれか一つに対応します。それらを [2] 、[3] 、[4] 、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、[2][3][4] に −84 と解答する場合には、次の（例２）のようにマークします。

（例２）

解答番号	解答欄
2	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪ ●
3	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⓪ ⊖
4	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪ ⊖

なお、同一の問題文中に [2] 、[3][4] などが２度以上現れる場合、原則として、２度目以降は、[2] 、[3][4] のように細字で表記します。

⑵　分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、$\dfrac{[5][6]}{[7]}$ に $-\dfrac{4}{5}$ と解答する場合には、$\dfrac{-4}{5}$ として、次の（例３）のようにマークします。

（例３）

解答番号	解答欄
5	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪ ●
6	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪ ⊖
7	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪ ⊖

⑶　小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⓪にマークしてください。

例えば、[8].[9][10] に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

⑷　根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4　「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は [11] 、[12] 、[13] 。」と表示のある問に対して、**2** と **5** と **8** と解答する場合には、次の（例４）のように「②、⑤、⑧」の順にマークします。

このとき、「②、⑤、⑧」以外の「⑤、②、⑧」や「⑧、②、⑤」などの順にマークした場合には、不正解となります。

（例４）

解答番号	解答欄
11	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪ ⊖
12	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪ ⊖
13	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⓪ ⊖